

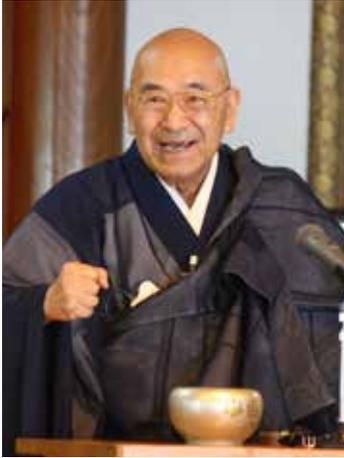
成願寺

令和元年 孟蘭盆会説教

人生つて、素晴らしい

北海道天龍寺住職 清水勝美

みなさま、こんにちは。本日私は北海道札幌市から参りました。札幌のお寺からわざわざ、とお思いになるかもしれません。副住職の要介さんと私の次男が本山で同安居^{どうあぐら}。つまり修行仲間でございます。とても仲良くしていただい



北海道天龍寺住職
清水勝美老師

季報

123

令和2年2月25日
(2020年)

目次

「人生つて、素晴らしい」清水勝美……………	1
令和元年秋の観音詣りの報告……………	6
山内短信……………	8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

て、私がお寺を建てました時には法要の手伝いにおいで下さったり、逆に次男家族が上京しますと、まずこちらに寄らせていただいているようです。そうしたご縁で本曰お声をかけていただいで、ありがた気持ちでみなさまの前に座つております。

ただいま法要が勤まりました。成願寺様は六百年以上の歴史があつて、方丈様は三十四代目だそうですね。すごいことです。私は実は一代目なんです。はじまったばかりのお寺の住職です。

ご開山をはじめ三十三代にわたり成願寺様の法灯を守り、みなさまのご先祖様を供養してこられた歴史代ご住職のご苦勞を考えると、自然と手が合わさりましたね。今日は私の話が終わりますと、みなさまのご先祖様のご供養、また近しい方を亡くされたばかりの方もいらつしやることでしよう。いろいろな思いの中で、背筋を伸ばし、合掌礼拝してお参りをさせていただくお盆のひとときですね。われわれ仏教徒にとりまして、非常に大切なお盆の行事なの

です。

供養と申しますのは、やってやっているのとは違います。させていたでいるんですよ。今の世相はなんでも、やってやった。こんなやってあげたんだ。報いを求める心が強すぎるように思います。どこかに買物に行きますとポイントがつきます。買って買ったんだから、ポイントをもらわないと、ということですかね。なにか戻ってこないと気が済まない世相になってきました。これではいけないと思います。させていただく心が大事なのです。陰徳を積むといいます。

ご先祖様やお亡くなりになった方々は、生きる私たちにお盆や年回法要などのご供養を通じて、仏教に親しみ、学ぶ機会を与えてくださっているのです。こうしたことをどう捉え、どう行うかはみなさんの心の問題なのです。真心を込めてきちっと行えば行うほど、実は自分のためになります。

オンラインピックを控え、「おもてなし」という言葉を盛んに言いますが、同じですね。良いことって面倒なんです。でも心を尽くして、手間をおしまずに。大変なことをきちっとやるのが大切で、そうしますと相手に自然と伝わります。それを回向といいま

す。相手のためと思つてしたことが、実は自分の学びや経験になつていく。

いまはとても生活が豊かになり、次から次へと便利なものが出てきます。手間などかけずに楽することが当たり前のような気持ちになつてしまいますね。でも楽ばかりしていますと、ぐうたらになつちやいますよ。道が二本ある。一本は楽な道、一本は険しい道。みなさんだつたらどちらを選びますか。手間暇のかかる険しい道の方が人を育てるんですね。そうしたことが禅宗の教えなのです。

先祖供養と自己研鑽

供養には三つの教えがあります。一つには「回想の供養」、二つには「自覚の供養」、三つには「和合の供養」です。

「回想の供養」、亡き人を思い起こすことが大事です。亡くなった方々を心いっぱい思い起こして、いつでも手を合わせて、いつでも感謝の気持ちで心を満たしてください。深い「心の眼」が開かれます。「自覚の供養」、気づくことの大切さです。私たちは、人間として命を頂戴しました。この命は、お母さんが、お腹の中にいるときから慈しんでくださり、また男

には想像もできないほどの痛みとともに産み落としてくださった。すっぱだかで産まれて泣くことしかできない私を、手間暇をかけて大切に育ててくださった。それなのに、そういうことを忘れて、もつときれいに生まれたかった、もつと良い家に生まれたかった、もつと健康に生まれたかった等、こういうのを無い物ねだりというのです。欲の始まりです。

こうしたことをぶつぶつ言うのが愚痴というやつで、仏教では愚痴はとでもよくないと教えます。周りによくない影響を与えるのです。

自覚をする、気がつくというのは非常に大切ですね。気づかなくては人は変われないんです。でもね、気づく機会はたくさんあるのですよ。

先日、檀家さんのお宅へお経に参りました。日曜でしたので、中学生のお嬢さんもおいででした。良い機会ですので、「聞いてごらん」とお母さんが声をかけました。そうしたら、「お母さんは、毎朝仏壇にお参りをするように言います。おばあちゃんがいつも見守ってくれているんだよと言んです。でも死んだおばあちゃんが私を見守ってくれるなんてことがあるんでしょか」と。

「そっだね、もう声も聞こえないし、見えないもん

ね。でもね、私も亡くなったあと、子どもや孫たちを、いつも元気でいてほしい、と見守りたいなと思うよ。毎日きちつと仏壇にお参りをする子は、見守ってくれていると自然に思えるのさ。お参りもしない子は、なかなかそういう気持ちにはなれないだろうね」、そんなお話をしました。

「そんなことを言っただって、この前は転んで足をくじいて大変だったよ」という方がいるかもしれませんが、でもね、「見守ってくれている」という気持ちは、どっかでポイントをもらうのとは違いますよ。毎日仏壇に手を合わせたから、「足をくじいたくらいで済んで良かった。ご先祖さま、亡くなったおじいちゃんが見守ってくれたんだ」と自然な、心で気がつくこと。こういうことがプラス思考であり、「自覚の供養」なのです。

「和合の供養」、みんな仲良くすることです。自分が死んだあと、子どもたちが仲良くしてくれるといいな、親類縁者みんな仲良く自分のことを思い出して、供養してくれたらありがたいなと思います。私がそう思うということは、私の父や母、祖父や祖母もきつとそう思っていただろうなと思います。みなさんもそう自覚して、ぜひ仲良く過ごしていただ

きたいと思います。

この三つの心がけを持って、仏さま、ご先祖さまに手を合わせていただければと思います。

成就する日々の行い

先日テレビを観ておりましたら、メジャーリーガーの大谷翔平選手のことを四人ほどの方が話をしていました。一人の方が「大谷選手は運がいいよね」と言ったんです。そうしましたら、日本ハムファイターズに大谷選手がいたところにコーチをしていた白井一幸さんが、「大谷選手と街を歩いていたら、彼はごみが落ちているのを見つけると全て拾っていました。偉いなど声をかけましたら、『ぼくは運を拾っているんです』と言うんです」と話をしている。すごいな、と思いましたね。さもあろうと思いました。

仏教では「運」のことを「縁」と言います。誰しもがいろいろな出会い、ご縁に巡り会いながら自分の人生を築いていくんです。人生においてどの道を歩むのか、それは自分しか変えようがありません。少しずつでも良いことをして、良い方に変えていきたいではありませんか。

「因縁果」という教えがございます。「因」という

のは原因のことです。それを作るのは自分です。それによって「縁」が巡ってきます。そして結「果」を得るのです。その結果がまた「縁」になって巡ってくる。言ってみればこれが人生です。良い「縁」をどうにか自分の方へ引きつけていきたいですね。

大谷選手は「運を拾っている」と言った。それは良い縁を引きつける願いを持っているのです。彼はアメリカに行きましても育ちの良さを感じさせるエピソードがたくさんありますね。ファンの子どもたちにも優しい。ベンチで同僚がぼいぼいごみを捨てている横で、自分は紙コップに集めています。グラウンドに入る時は脱帽をして頭を下げ、笑顔もとても素晴らしい。

大谷選手は自分の行う「因」によって、良い「縁」を巡らせている。良い「縁」を引きつけています。こうした日々の行いが、自分を作り、普段の行いということが、とても大切だと仏教では教えています。自分が何を行って良い「縁」と結ばれていくか、そこが大事なのです。よく「運命だから仕方がない」なんていう人がいますが、違うんですね。良い「縁」を自分で引く張ってくるのです。「自分の命は自分が運ぶ」と禅宗では読みます。

仏壇の存在が家庭教育

昨今、家庭教育ということがほとんど無くなってしまったように思います。家の中に仏壇のあることの大切さがわからなくなっている。

先日、私どものお寺に見えた初老の奥さん、ご主人が亡くなったのですが、「仏壇は無くてもいいでしょうか。お墓があるし」とこうおっしゃる。どうしてかなと思いましたら、「子どもや孫に迷惑をかけたくない」と言うのです。

みなさん、子どもや孫たちは、仏壇があると迷惑なんですかね。まあ、あれば面倒くさいですか。ご飯を上げたり、お茶を上げたり、お花を上げたり。お参りもしなくてはいけない。でもね、それが大事なんです。手間暇をかけてご供養させていただく。それが人の心を磨くんです。

かつては、私たちは仏壇中心の生活でした。朝起きると身支度をして、仏壇に炊きたてのご飯とお水を上げて、まっすぐにお線香を立て、「今日も一日お見守りください」と手を合わせる。それからみんな朝ご飯です。お母さんがご飯をよそってくれたら「いただきます」と合掌をしていただき、「ごちそう

さまでした」と感謝をして自分の使った器を台所へとさげた。そうした朝が日本全国で普通だったのです。靴を脱いだら揃えなさい。人に会ったら挨拶をしなさい。お年寄りを大切にしなさい。作法、礼儀所作、こうしたことのひとつひとつが見えない心を磨いていく。

「お孫さんが朝起きて、お仏壇に向かつて、仏さま、おじいちゃん、おはようございます、と手を合わせている姿。想像してごらんなさいな。そうしたことがどれだけ大事かと思いませんか」と、先ほどの奥さんにお話をしました。

そもそも仏壇というのは、本尊様をお祀りするものです。ですから、旦那さんを亡くされたから買い求めるということではないのです。お仏壇にはお釈迦様、両祖様、ご先祖様をお迎えし、お祀りするのです。そして毎朝、手を合わせる習慣を身につけていただきたい。お仏壇の無いご家庭は、一日一度手を合わせる対象として、仏像をお祀りすると良い。

この「因縁」によっていつの間にか心が深く豊かになり、心を磨くということが、自分が仏になる、仏教なのです。

先日、用事でホテルに行きましたら、ロビーで大

きな花器に一生懸命に花を活けている方がいました。一輪、一輪を吟味して、どこに挿すのか。体を大きく使って丁寧に活けていました。華道の世界ですね。茶道もそうですが、一服のお茶を差し上げるのに丁寧に心を込めて作法のままに行いますね。いたたく方も丁寧に礼を尽くして頂戴する。柔道や剣道、弓道なども、礼から始まり礼に終わる。この「道」のつくもの、仏道もそうですが、無心にそのものになりきって真似から始まります。一日真似すれば一日の真似です。二日真似すれば二日の真似。一生真似し続ければ本物になる。それが体得ということです。

禅宗では特に頭でつかちに考えるのではなく、実践の修行を重んじています。姿勢をただしなさい。呼吸を整えなさい。汚れてるかどうかではなく、毎日掃除をしなさい。そうしたことではなく、磨かれていきます。逆に現在の科学万能、物質優先の社会で勉強だけやりますと、鼻っ柱の強い人間になりやすい。

北大に見事合格した息子さんに手を焼くお母さんから、「毎日毎日栄養に気を使った食事を整えて、受験を応援してきましたが、受かってみれば、自分の力でやったんだといばってしょうがないんです」と

相談を受けました。心を磨くことをおろそかにして、勉強だけしますと、上から目線で感謝の気持ちのない人間になってしまいます。それでもまだ若いのですから、いづれ気づいてもらえたらよいなと思います。

これから大切な盂蘭盆のご法要が始まります。今日お寺にきて、仏教の話を聞く機会、大切な法要に参列する機会を与えてくださったご先祖さまに感謝の気持ちで、そして全ての恵みに生かされている命であると感得して、手を合わせれば、幸せを実感させていただける素晴らしい人生になるでしょう。

本日はご静聴ありがとうございました。合掌

令和元年秋の観音詣りの報告

恒例の秋の観音詣り、昨年は十一月十一日(月)からの一泊で小田原と伊豆方面を巡拝しました。

朝七時半成願寺に集合。観音堂にて旅の安全を祈念して大型バスに乗り込むと、東名道を小田原へ向けて出発。途中海老名で休憩をはさんで九時半ごろには、巨木の立ち並ぶ杉並木の参道を進み、大雄山最乗寺へと到着しました。成願寺は最乗寺五世春屋宗能禅師のお導きにより、鈴木九郎によつて建立されたのがそのはじまり。成願寺にとつて大変縁の深

いお寺です。法堂（本堂）にて山主の石附周行老師よりご挨拶をいただきました。

法堂脇から続く長い階段をなんとか上がると、最乗寺を守護される妙覚道了大薩埵が祀られる御真殿へ。薄暗い堂内には朱色の祈禱太鼓、鳴り続ける鑿子の音、ろうそくの明かりに浮かび上がるお柵と鏡。テンポの早いお経が進むにつれ、堂内が靈験で満たされていくようです。十一面観音の化身という道了様の神通力を感じる力強いご祈禱を受けました。

檀信徒会館の一室で優しいお味の精進料理をいただき、ご祈禱札、最乗寺オリジナルの手ぬぐい、ポールペン、お箸、パンフレットをおみやげに頂戴して、最乗寺をあとにしました。

バスはほど近くの尊徳記念館へ。二宮尊徳（金次



お話をくださる石附山主老師



ガイドさんより丁寧な説明を受ける一行（尊徳記念館）



ご挨拶のお経（東泉院）

郎）は江戸時代後期の農政家で、酒匂川の氾濫によって荒廢した田畑の復興に尽力。その手腕は小田原藩主が知るところとなり、以降、関東から南東北にいたる村々で財政再建・農村復興にまい進したそうです。ガイドの方の案内で、尊徳の生涯を描いたアニメ、遺品などの展示、移築復元された生家の見学を一時間ほどかけて説明をいただきました。

左手に車窓いっぱいにおだやかな相模湾を眺めながら、バスはビーチランを南下。四時ごろ、東伊豆町の東泉院へ。ご本尊の聖観音様にご挨拶のお経を上げさせていただきました。副住職の金田祥道師にお説教を頂戴しました（前号に掲載）。尼僧様らしい優しい語り口で、一行はうなずきながらお話しに耳を傾けました。お話の途中、激しい雷雨が。バス

までたくさんのお傘を貸してくださって、お手数をおかけしました。

バスは伊豆稲取温泉銀水荘へ。素晴らしい湯質、最後まで飽きさせないお料理とオーシャンビューのお部屋に大満足の一夜を過ごしました。

あくる日は八時半に宿を出発。とても良い天気恵まれて、相模湾の水面

がキラキラ輝いています。バスは中伊豆方面、一路修善寺町へ向かいます。

弘法大師の開創で知られる修禅寺のはじまりは、大同二（八〇七）年と言いますから、千二百余年の歴史を刻む古刹。真言宗、臨済宗、そして現在の曹洞宗と改宗を重ねながら、修善寺町、中伊豆の人々の尊崇を集めてきました。ご住職の吉野真常老師にお寺の歴史についてお話を頂戴し、山内をご案内いただきました。



ご住職の
立られるご
挨拶（修禅寺）
吉野老師

帰りには、明治、大正、昭和の三代七十七年間にわたり、皇族の方々が訪れたという沼津の御用邸記念公園を見学。沼津港で昼食と買い物それぞれ楽しんで、成願寺への帰路へつきました。（了）

山内短信

◎春彼岸中日法要「修証義奉読会」のお知らせ

三月二十日（金）春分の日

十一時～ 受付始まり

十二時 講談 日向ひまわり師

十三時 法要

「修証義」を参列者全員で奉読いたします。法要前には、恒例となった日向ひまわり師の講談を予定。

◎春の観音詣りのお知らせ

四月二十九日（水・昭和の日）恒例の春の観音詣り。群馬県伊香保に平成十八年に建立された台湾臨済佛光山寺日本総本山・佛光山法水寺を参拝します。榛名山を背にした広大な境内には異国情緒豊かな伽藍が立ち並びます。大雄宝殿では白石の一枚岩に彫刻されたお釈迦様を参拝。慈悲宝殿では千手観音菩薩に参拝させていただきます。お説教を頂戴します。その後、伊香保温泉の老舗旅館「福一」で特製昼会席をいただき、古の湯「黄金の湯」と近年湧出した「白銀の湯」を楽しみます。

最後に坂東十六番札所、千六百年の歴史を誇る水沢観音水澤寺へ。霊験あらたかな十一面観音は古くから人々の信仰を集め、歴代天皇の勅願寺としても栄えた古刹に詣ります。

檀家以外の方も、どなたでもご参加いただけます。

会費 一万五千元（予定）